
恋を教えて

y?i

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋を教えて

【著者名】

ZZマーク

ZZマーク

Y?i

【あらすじ】

恋愛経験0のお嬢様が恋をしたのは……政略結婚の相手の……兄だつた！？…………弟からのもう攻撃に、兄の何気ない優しさとドキドキの数々…………「今まで恋愛出来なかつた分、一生分の恋をさせてやるよ……」

私は『藤白桃花』世間で言ひ、お嬢様！！

でも、恋愛経験0

22歳になつても、手すり繋いだことない…

なのに…今日、政略結婚の相手に会わなきやいけない…

私は『恋』を知つてから好きな人と結婚したかつたけど、今まで大事に育てくれた、お父さんの為に…『神藤』財閥のぼっちゃん

んと…

年下らしく…

『桃花 着替えたか?』

げつ、いつも
苦手だな…

でも、

「うふ。着替えたよー。お父さんーー。」

『よし。行くか!』

「うふ

私はお嬢様：

スカートが嫌いで、恋愛経験0の…

そんな私が恋する王子様はいるんだろうか…

私達が待ち合わせ場所に着くと、もう相手の方々が着ていた。

『すいません！ 神藤さん～』

「いえいえー。藤白さん」

『桃花、挨拶しなさい。』

「うううん。藤白桃花です。よつよろしくお願いします。」

私が緊張しながら言うと、男の人気が立ち上がりて…

「僕は『神藤勇氣』です。よろしく。」

男の人は爽やかで、スゴくカッコいい…

年下とは思えないぐらいしつかりしてる。

『まあまあ、桃花ちゃんーあんまり緊張しなくて良いのよ。』

相手のお母さんがそう言ってくれた。

若い感じのお母さんでスゴく優しい。

この人達とだったら、きっと上手くやつていけると思つてた。
あの人に出会つまじめ…

それから、こうこう語じてゐる……

『ねむって、桃花ちゃんは明日から花嫁修行のために家で暮らすの
といふで、』

「...」

思わず私と神藤原の声が重なる…

「おれこのへんへ・めぐらへー。」

「おれこのへんへ・めぐらへー。」

『あ～「めん、「めんー。』

お父さんが言ひ。

『じいせ半年、べりこ後に結婚するんだ。一緒に暮らして慣れなさい。

』

『アーニア。魔族もねー。』

「……………」

「……………」

「じゃあね。お父さんー行つてきまーすー！」

「おおー」歎を付けて。神藤さん、迷惑かけるんじゃないぞー。」「

分かつてゐつて！！

ペーんボーン

『せー。』

「ふつ 藤田です。」

『あつ 桃花ちゃん?』

「お母さんですか？」

『ええ、入つて！』

ピンポンマイクでお母さんと話終ると、すごく大きい門が開いて、執事さんがでてきた。

「ようこそいらっしゃいました。藤白様。今から奥様の所に案内します。」神藤家はスゴく広くて綺麗だった!!

「ありがとうございます。それでは失礼します。」

「あっありがとうございます。」

『ありがとう。セバスチャン!』

セバスチャンって言うんだ！！

『桃花ちゃんがいいやーーー、いいやーーー』

『えーと、勇氣は…………全くもー…。あの子ああ見えて、恥ずかしがり屋なのよー。だから今もここにいないけど気にしないでね。じゃあ桃花ちゃんの部屋を案内するわねー！行きましょうか。』

「おつがどひ、じれこました。」

へー、ドアめでやつぱはつ綺麗

『この真ん中のが桃花ちゃんの部屋のドア。右が勇氣の。左が勇氣のね!』

お兄ちゃん?... ころんだ...

『じゃあ、頃氣は部屋にこると恥つかう... ーーーお兄ちゃんもねー』
飯の時に呼びに来るからそれまで皿田にしてね。』

「あーせーーありがとひやれこまつた。」

私はとりあえず部屋に入つてみた。

「…広…」

そこは、驚くべき広さだった。

「わ…！ベットも大きい…！」

ボフッ

ベットにダイブ!!

「ふー。掃除もしなくて良むかひだし…お兄さんと黙々とんとつ
あえず挨拶しに行こうかな。」

「 もうせ、 風眞也さ… いや、 お兄ちゃん… 」

トントン

？？？？？

トントンッ

?反応がない！

居ないの？

ガチャツ

「えつ！」

ドアが開いていた

入る？…いやでも…さすがに…でも…あ～もういいや入る！

「しつれーしまーす…」

なぜか、誰も居ない…

？？？？

「あつ……」

部屋の奥の方から何か声が聞こえてきた……

音の方へ向かつて行くとだんだん分かりやすくなる声……

「あんんんつあ～ン…あ…」

！？えつ？…

ベットで重なり合つ二人！？

私は固まってしまう。

その時、男の方と目があつた。

「……」

男の動揺もさとまる。

「.....」

「はあ.....お前もいつ帰れ」

男が女の方にそつ語つた。

「え~もう…また、遊んでね~速人くん!」

女の人は男の人にそう言つと、私に

「あんたのせいよ~」

と言つて去つていつてしまつた。

「あ.. どうしてやれる?」

「え? ...?」

「良いとこだつたのこ…」

は?」の人ナニイツテンノ?/?/?/?/…

「責任とつて、楽しませてくれよ…」

「…………」

なんで……なんで……

なんで……なんで……

「うわあ……うわあ……」

床に押しつかれて、顔があと少しどپシタつらつこしてしまった
うな距離…

「えいやつて、家に入つて来たのかな?...子猫のやん...」

「あつあの...私、勇戻れるの...」

「なに？… 勇気の女？」

「いや、女といいますか… 許嫁？… でしょ？…」

「許嫁… ？ああ、政略結婚の… 君だつたんだ… お嬢様…」

そう言つと、その人は私の上から退いてくれた。

「なんだ、つまんねー…」

「…」

「俺、お嬢様は嫌いなんで…」

別に好んでもらわなくとも良いけど…

なにこの人…早くこの部屋から出ないと…

「そつ…それでは、失礼します…」

ガシツ

いきなり手を掴まれた。

「はふえ？」

変な声が出る…

「好きでもない相手と結婚すんの…？」

「え？……」

「お前…恋した事あるの？……」

恋

この時、私の中で何かが動いたんだ…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3539m/>

恋を教えて

2010年10月10日20時38分発行